

患者数の状況

令和元年度の患者数の動向については、入院患者数で1万192人となり、前年度対比131人（1・3%）の増加となりました。

また、外来患者数では、4万814人となり、前年度対比4585人（10・1%）の減少となりました。

収支状況の概要

令和元年度は、入院収益と外来収益はそれぞれ減収となりましたが、単年度収支は1800万3千円の黒字となりました。

また、令和元年度決算で生じた純利益は、累積欠損金（内部積立金不足額）に充て、年度末で6億3544万4千円に縮小することができました。

医師および医療スタッフの確保に向けて

病院経営にとって、常勤医師はもとより、看護師をはじめとする医療技術員の体制整備は、病院運営と経営の根幹をなすものです。

医師確保の問題は、町立厚岸病院のみならず全国的に改善が進まず、特に、へき地の自治体病院や診療所

において共通した重要課題で、非常に厳しい状況が続いています。

医療や福祉はマンパワーとチームワークが大切です。町立厚岸病院が担う地域医療の確保や24時間の救急医療を維持するため、北海道などと連携し、常勤医師の招へいと医療技術員の確保に全力で努めていきます。

老健『ここみ』の運用状況

医療と高齢者福祉に対応した介護老人保健施設『ここみ』（23床）は、町立厚岸病院と特別養護老人ホームの中間的な役割を持つ施設で、在宅で



■補助金と財源内訳の推移

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
補助金	521,564	585,433	568,618
企業債元利・建設改良	198,488	193,218	152,302
救急医療	115,895	116,768	122,002
不採算地区病院対策	90,976	204,814	216,080
その他	116,205	70,633	78,234
うち法令基準に基づく国からの交付金額	215,417	226,302	219,230

※『法令基準に基づく国からの交付金額』は、国から示された数値を記載しています

■病院収支と累積欠損金の状況

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
病院事業収益	1,264,908	1,239,851	1,201,259
入院収益	309,665	251,806	236,441
（入院患者数）	（12,522人）	（10,061人）	（10,192人）
外来収益	386,849	363,688	339,734
（外来患者数）	（48,487人）	（45,399人）	（40,814人）
他会計補助金	364,818	429,031	437,570
特別利益			
その他	203,576	195,326	187,514
病院事業費用	1,219,790	1,196,217	1,183,256
給与費	707,698	700,427	735,332
材料費	127,097	117,553	111,956
経費	209,471	202,116	202,189
企業債利息他	41,986	36,921	31,930
特別損失			
その他	133,538	139,200	101,849
当年度純利益	45,118	43,634	18,003
その他未処分利益剰余金変動額			
減債積立金処分額			
累積欠損金	697,182	653,548	635,545
うち不良債務	18,955		4,762

自立した生活ができるよう、リハビリを中心に食事や入浴などのサービスを受けながら、カラオケやゲームなどレクリエーションを楽しんだり、入所者同士が交流しながら、自立した生活を支援する役割を担っています。

令和元年度決算では、収支差引引き255万6千円の黒字で、利用状況では、1日当たりの平均入所者数が19・2人（前年度対比0・8人の減）の利用となりました。

町立厚岸病院では、24時間の救急医療体制を整備し、救急患者の受け入れを行っています。これは突発的な症状（激しい頭痛、腹痛、胸痛、外傷等）で、緊急処置の必要な患者さんの治療を行うものです。

しかし、『「コンビニ受診」と呼ばれる緊急性の低い軽症患者の受診もまだまだ見受けられます。救急外来は24時間いつでも受診できる便利な夜間診療ではなく、緊急時に対応するためのものです。コンビニ受診が増えると、重症患者への対応に影響が出たり、医師の負担が増して疲弊にもつながります。

できるだけ診療時間内に受診をお願いします。

